

【作用】

本発明の実施態様では、車体に連結され内側に閉鎖部材を備えたタンク・カバーをちょっと押し込むだけで、キャップを開放位置から閉鎖位置に移動させることができる。このようにして閉じられたタンク・カバーをもう一度軽く押し込むことによって、鎖錠状態を自動的に解くことができ、——特にばね部分を備えたことによって——給油管に給油ピストルを挿入するためにタンク・カバーを十分に開くことができる。このような鎖錠と解錠は、明らかに自動給油のために利用することができる。その際、給油管またはそれに固定されている接触部がまずタンク・カバーに接し、それによってタンク・カバーを開く。給油の後、タンク・カバーは適当な方法で再び閉じられ、密閉状態が達成される。

【0007】

最も簡素な構造の場合には、鎖錠部分は戻り止め球であってもよい。しかし本発明の更に別の実施態様では、鎖錠部分を、ピストンに取り付けられたゴム製のリングとするのが、特に好ましいことが証明された。このリングは、給油管のためのパッキングを支持するピストン・ヘッドと、スリーブとの間で支えられ、ピストンが給油管のシールされるべき開口部にかぶさった後にこのリングが軸方向の圧力を受けると、半径方向に広がって前記の溝に押し込まれる。鎖錠用のこのゴム製リング、および/またはタンク・カバーとピストンとの間のコイル・スプリングは、開放方向への付勢のためのものでもあるから、鎖錠部分のロックが解かれると、タンク・カバーは、シールされるべき開口部に今なおかぶさっているピストンからの反力によって、外側へ押される。次にこの開放運動は、キャップ全体が開くという結果をもたらす。

【0008】

スリーブの内部におけるピストンの支持構造は、ボール・ペンのチャックずらせ機構に似たものであってもよい。

【0009】

しかし本発明の更に別の実施態様では、このようなボール・ペンのチャックずらせ機構の代りに、ピストンにカージオイド形の溝が、例えば成形などの方法で設けられ、その溝に留め金の一端がはまり込み、他端はスリーブに支えられる。